



さかいぎ

チャレンジアップ! かがやく自分

9月号

令和3年9月1日
横浜市立境木小学校

終戦後76年 昭和時代の戦争を令和の時代に語り継ぐ

校長 清見 克明

夏休みが明け、元気な子どもたちと楽しい学校生活が始められると思っていた矢先、緊急事態宣言の延長に伴い、横浜市立学校では8月末までの臨時休校となりました。ロイロノートによる健康観察などのご協力、ありがとうございました。学校再開に向けて万全を期していきます。引き続き保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、この夏は新聞等のメディアに「広島は76回目の原爆忌を迎えた。」「長崎は76回目の『長崎原爆の日』を迎えた。」「終戦から76年目となった。」という報道がありました。

76年間という歳月はとても長く、「次世代を担う若い世代にどのように戦争のことを伝えていくか」という課題が多く報道されていました。戦争が終わって76年たった今でも、日本に限らず、世界中でいまだに心身共に傷が残っていて苦しんでいる人々が多くいます。風化させないようにする努力が必要です。

私の父は終戦の年、横浜の国民学校6年生でした。終戦当時、箱根に集団疎開していたころの話をよくしていました。戦争のことを語れる年代の方は、現在80才代の後半になりました。

私の祖父や、祖父の兄弟は、何人かが従軍をしていて、祖父の軍服姿や、大祖父の出征時の写真（下記写真左から3人目）や従軍記章、在郷軍人記章などが残っています。祖父



大祖父の出征時 中央・
右はじが祖父

（下記写真右）は、父が物心ついた頃は、在郷軍人であり、幼少の頃の父は、家に保管してあった「防毒マスクや、軍服などが怖かった。」などと話をしていました。頂いた軍歴調書を見ると、明治43年生まれの大祖父は昭和4年に陸軍に入隊しています。中国大陸に派遣され、一度除隊をしていますが、再び入隊し、終戦は、中国大陸で迎えています。昭和4年から昭和20年まで、長い年月を、なんらかの形で従軍していました。もう一人の大祖父は中国大陸で戦死をしています。

当時、父の家は西区にありましたが、横浜への空襲で焼けてしまいました。黄金町の駅が近くで、当時の横浜の中心部は焼け野原になり、多くの方が死傷しました。よく「あの戦争がなかったらなら・・・」と口にしていました。

終戦後76年たった今、「戦争を2度と起こしてはいけない」「起こさないように努力をし続けなければならない」次世代を担う若い世代に、しっかりと伝えていきたいものです。

一斉登校時間以外の登校・下校のルールとフール門の施錠について

◇◆◇ 児童の安全面を配慮して、本来のルールの徹底をします ◇◆◇

- ◆遅刻の際は、職員玄関前の門から入り、職員玄関インターホンを押して登校する。職員室へ必ず寄る。（職員室から担任へ連絡いたします。）
- ◆早退の際は、保護者が教室前まで迎えに行く。その際の出入りも職員玄関前の門から入り、職員玄関を利用し、職員室へ声をかける。（職員室から担任へ連絡いたします。）
- ◆プール門は、1時間目の開始時刻頃に施錠いたします。